



1月給食だより



令和8年1月8日
板橋区立紅梅小学校
校長 小宮 孝之
栄養士 加藤 望美

新年を迎え、3学期が始まりました。みなさんは冬休みをどのように過ごしましたか。
気持ちも新たに、学校生活のリズムを取り戻し、3学期も元気に過ごしましょう。

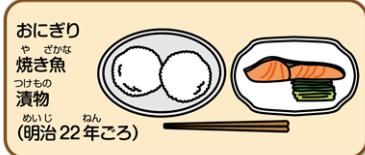
今月の給食目標

給食について知ろう

がつ こう きゅう しょく はじ

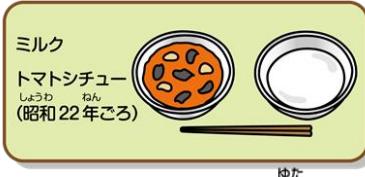
学校給食の始まり

明治22(1889)年、山形県の私立忠愛小学校で、貧しい子供たちへ食事を提供したのが始まりとされています。この学校は大督寺というお寺の中にあり、お坊さんたちが日々を回ってお経を唱え、いただいたお金や食べ物を使って食事を用意していました。大正12(1923)年には、子供たちの栄養状態を改善するための方法として、学校給食が国から奨励されるなど、各地へ広がりましたが、戦争による食料不足で中止せざるを得なくなってしまいました。



支援物資による学校給食の再開

戦後、子どもたちの栄養状態の悪化を心配する声が高まり、昭和21(1946)年12月24日にLARA(アジア救援公認団体)から給食用物資の寄贈を受けて、翌1月に学校給食が再開されました。当時は12月24日を「学校給食感謝の日」としていましたが、その後、冬休みと重ならない1月24日からの1週間を「全国学校給食週間」とすることになりました。



バラエティー豊かな献立内容に

昭和29(1954)年に「学校給食法」が成立したことで、学校給食は教育活動として位置付けられるようになりました。主食はパンが中心でしたが、昭和51年に米飯(ご飯)が正式に導入されると、カレーライスや炊き込みご飯などが登場し、献立内容が充実してきました。



～15日はあまっこ給食の日～

天津わかしお学校は、板橋区が千葉県鴨川市に開校している、健康改善を目的とした特別支援学校です。

今回は、天津わかしお学校でも提供されている「和風きのこサラダ」を献立に取り入れました。

学校給食の内容は時代とともに変化していますが、いつの時代も変わらずに、「子供たちが食べる」といふことなく、おいしく食べて、健やかに成長できるように」といった願いが込められています。現代は、大人になっても自分自身で考えて健康な食生活を続けることができるよう、学校給食は「教材」としての役割も担っています。



20日の板橋ふれあい農園会給食は、板橋区でとれた、新鮮な長ねぎだっこ！「魚(助宗たら)の板橋区産ねぎみそ焼き」と「かきたま汁」で味わうっちい！

